第 10 章　自己点検評価

10－１　学長室

達成目標（１）
　学内諸活動の自己点検評価を毎年実施し、改善へと結びつく自己点検評価体制を構築する。

目　標

　教育研究年報の在り方を検討し、自己点検評価活動と連動させる。
2011 年度目標：自己点検評価報告書の年報としての編集を進める。

現状説明

　今年度から単年度で自己点検評価活動を実施することを目標に準備を進めてきた。その一環として、前年度の自己点検報告書を年報として編集を行い、年度内に完成させることを行っている。今年も、昨年に引き続き、2010 年度版の自己点検評価報告書を年度末までに完成させることができた。この実績を踏まえ、2011 年度においても、自己点検活動を年度内に実施し、報告書としてまとめることが定着させることが可能となっている。また、その内容を簡潔にまとめたダイジェスト版の概要についても検討を行い、来年度に向けた準備を終えることができた。

点検・評価

＜行動計画内容の達成度＞Ａ
　当初の目標を十分達成することができた。

＜成果と認められる事項＞
　単年度での自己点検評価が実現するとともに、自己点検評価活動の内容について、ダイジェスト版を発行できる見通しがついた。

＜改善すべき事項＞
　PDCA サイクルの手法を踏まえた自己点検評価活動が、改善につながっていくが、教職員に対して、その手法や内容、重要性に対する理解をさらに深めていく必要がある。

今後の改善・改革に向けた方策

＜長所の維持・伸長方策＞
　単年度での自己点検評価活動を今後数年は同様に継続していく。

＜改善方策＞
　自己点検評価報告書の作成方法など、説明会を実施し、その重要性や改善につながる PDCA サイクルの具体的体制の構築を図っていく。

達成目標（２）

学部等より提出された自己点検評価結果と改善策を「大学評価委員会」が点検して、改革成果に関する評価と改善策を付して学長に報告する。その結果を踏まえ、学長は、毎年３月に学部等の長に対し、個別に「学部マネジメントおよび教育改革」に関する指示・課題を与える。（毎年度）

目　標

自己点検評価委員会を立ち上げ、課題抽出を行うとともに、翌年度の方針に活かす。
2011 年度目標：2011 年度自己点検評価報告書の課題抽出と翌年度の方針策定。

現状説明

2011 年度から新たな試みとして単年度 PDCA での自己点検評価活動の運用を行っている。具体的には､単年度 PDCA に対応した自己点検報告書の作成について説明会を３回実施した。また相互点検評価体制の確立を行い、年度内での課題抽出作業と翌年度の方針策定を可能にした。これらの評価結果は、大学評価委員会で報告書の点検を行い、大学として取り組むべき課題・問題の抽出結果が答申として学長に報告される。あわせて、大学基準協会による第三者評価報告書においても課題が指定されていることから、これらと合わせて学長に報告される。

点検・評価

＜行動計画内容の達成度＞Ａ

新たな PDCA の運用を目指し、相互点検評価活動が実施可能になり、自己点検評価報告書から抽出された課題等を年度内に学長に答申することができるような体制を確立した。このことにより、学部長のマネジメント及び教育改革への取り組みや学部ごとの対応についても、学長から早期に指示及び課題の提案が行える体制となった。

＜成果と認められる事項＞

各学部において、PDCA の運用が可能となり、自己点検評価報告書作り等の評価活動が、以前よりもスムーズに実施されるようになっている。

＜改善すべき事項＞

特になし。

今後の改善・改革に向けた方策

＜長所の維持・伸長方策＞

自己点検評価報告書の作成が、具体的な改善につなげられるよう、さらなる自己点検評価体制の見直しを継続していく。

＜改善方策＞

特になし。